けやきどおり通信

２０１８年5月　～NO．296～

新しい雑誌が入ります

２０１８年４月発行分より、以下の雑誌が順次入荷します。
ぜひご利用下さい。

【本館】
- 『おとなの週末』講談社（月刊）
- 『かぞくのじかん』婦人之友社（季刊）
- 『ＣＲＵＩＳＥ（クルーズ）』海事プレス社（隔月刊）
- 『ＳＵＲＦＩＮ’ＬＩＦＥ（サーフィンライフ）』ダイバー（隔月刊）
- 『ＢＲＵＴＵＳ（ブルータス）』マガジンハウス（月２回刊）

雑誌の最新号は貸出・予約ができません。バックナンバーは予約することで他館から取り寄せできます。

【南部分館】
- 『ことりっぷマガジン』昭文社（季刊）

【中部分館】
- 『いいね』クレヨンハウス（不定期刊行）
- 『月刊サッカーマガジン』ベースボールマガジン社（月刊）

休館日

5月の休館日

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

6月の休館日

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

■ は本館の休館日です

5月のギャラリー

予定はありません

編集後記

今年のゴールデンウィークは人によっては７～１０連休あるとか。みなさんはどこかにお出かけされたでしょうか。最近はアジア圏への旅行も人気と聞きます。貴重な連休をうまく活用したいですね！　私もどこか行きたい！と思いながら今年も脳内旅行です（お）

けやきどおり通信　（No.296）
編集・発行　碧南市民図書館
〒447-0057
碧南市鶴見町１－７０－１
TEL：（0566）41－0894

特集　闘う人たち

〝生きることは戦いだ〟などといいますが、戦いのフィールドは人それぞれ。歴史という大きな時代のうねりに身を投じてきた人たち。会社や家庭の中で日々もがく人、スポーツや勝負事の世界に身を置く人、病と対峙する人、実にさまざまです。

今月の特集は、そんな「闘う人たち」の姿を描いた本を集めました。

『高校生ワーキングプア』　NHK スペシャル取材班/著　新潮社（367.6 コ）

貧困問題にさらされる高校生の姿を追ったＴＶドキュメンタリーを書籍化。生きていくために働かなければならない高校生たちが直面している「見えない貧困」とは。

『「戦地」に生きる人々』　日本ビジュアル・ジャーナリスト協会/編　集英社（319 セ）

チベット、ビルマ、チェチェン、レバノンなどに単身足を踏み入れたジャーナリストたちが見たのは、戦火にさらされ、理不尽な暴力に支配されながらも、誇りを失わずに生きる人たちだった。

『それでもボクは会議で闘う』　周防正行/著　岩波書店（327 ソ）

映画『それでもボクはやってない』で日本の刑事裁判の不条理を取り上げた映画監督・周防正行が、法制審議会の委員に選ばれた。えん罪をなくすために闘った日々を語る。

『闘う書評』　福田和也/著　新潮社（019 タ）

書評とは、「書物の内容を批評・紹介すること」（『広辞苑』岩波書店）。近頃手ぬるい書評ばかりではないかと息巻く著者が、大物作家もベストセラー作家も容赦なくぶった斬った本音批評。

『ビブリオバトルハンドブック』ビブリオバトル普及委員会/編著　子どもの未来社（019 ビ）

お気に入りの本をプレゼンして、どの本がいちばん読みたくなったかを競う知的書評合戦・ビブリオバトル。子どもから大人まで楽しめるコミュニケーションゲームのルールや開催例を紹介。

『闘う東北』朝日新聞東日本大震災取材班/著　朝日新聞出版（369.3 タ）

東日本大震災から１年。朝日新聞の記者 10 人が被災者の近くで暮らし、そこで見聞きしたことを綴る。新聞には書ききれなかった思いが詰まった１冊。

『母と娘はなぜこじれるのか』

斎藤 環/編著　田房永子/ほか著（367.3 ハ）

こじれやすい母と娘の関係。その原因はどこにあるのか？　精神科医の著者と、田房永子、角田光代、萩尾望都、信田さよ子、水無田気流の５人が、母と娘について語り合った対談集。

『闘う社長』大塚英樹/著　講談社（335 タ）

ファミリーマート、王将、コジマ、キリンビールなど８つの企業の社長にインタビュー。思わず“こんなトップの下で働きたい！”と思わせてしまうカリスマ社長たちの素顔とは？

『闘う物理学者！　天才たちの華麗なる喧嘩』竹内　薫/著　日本実業出版社（420 タ）

ガリレオ vs.ローマ法王、ホーキング vs.ペンローズなど、現代物理学を支える天才たちも闘ってきた！　その議論、葛藤や苦悩ををユーモラスにに描く。

『闘病記専門書店の店主が、がんになって考えたこと』

星野史雄/著　産経新聞出版（492 ト）

妻を乳がんで亡くしたことを機に、闘病記専門の古書店の店主となった著者。2,800 冊もの闘病記を読破したが、自らも末期の大腸がんであるという診断を受け、考えたこととは･･･。

『サムライブルーの料理人』

西　芳照/著　白水社（783.4 サ）暮らし

闘っているのはフィールド上の選手だけではない。サッカー日本代表選手を「食」で支えた専属シェフの奮闘記。
W 杯南アフリカ大会の全メニューと最強のレシピつき。

『心との戦い方』

ヒクソン・グレイシー/著　新潮社（788 コ）

無敵の柔術家ヒクソン・グレイシーは、激闘をいかに戦い、どう生きてきたのか。問題をクリアするための手法や戦略を明かす。

『素顔のフィギュアスケーター』宮本賢二/著　小学館（784 ス）暮らし

氷の上で華麗な戦いを繰り広げるフィギュアスケーターの素顔とは？
振付師の著者が親交の深いフィギュアスケーターを招き、本音と素顔を引き出すトーク番組を書籍化。

『ハーレムの闘う本屋』ヴォーンダ・ミショー・ネルソン/著　あすなろ書房（933 ハ）

1939 年、ニューヨーク７番街に風変わりな書店が誕生した。それは黒人が書いた、黒人についての本だけを売る店だった。偏見に屈することなく、全米一の黒人専門書店をつくりあげたルイス・ミショーの生涯を描く。

『冬のライオン』

セバスチャン・ユンガー/ほか著
日経ナショナルジオグラフィック社（936 フ）

ゲリラ戦の天才的指導者、急進的な環境活動家、エボラウィルスと戦う医師など、生と死の境界で活動する人々を、気鋭の作家たちが密着取材したノンフィクション 10 編。

『音に出会った日』

ジョー・ミルン/著　辰巳出版（936 オ）

生後 16 ヶ月で〝全聾（ぜんろう）〟と診断されたジョーは、いじめや偏見などの苦難に立ち向かいながら成長するが、30 代にさしかかるころ難病にかかり視覚までも失い始める。
しかし彼女を待っていたのは運命の出会いだった！　実話を描いたノンフィクション。

『明治乙女物語』滝沢志郎/著　文藝春秋（F タ）

明治中期、高等師範学校に通う咲と夏たちは、鹿鳴館の舞踏会へ招待される。けれどそこには暴徒の魔の手が･･･？　女に学問はいらぬ、という時代と戦った乙女たちの物語。

『戦うハニー』新野剛志/著　KADOKAWA（F シ）

会社を辞めて保育士として働き始めた星野親（ちかし）。だがその無認可保育園「みつばち園」には、様々な事情を抱えた子どもたちが集まっていた。体当たりでぶつかっていく親だったが、市から運営形態を問題視され、園に存続の危機が訪れる。そこで彼らがとった行動とは？

『キッチン戦争』樋口直哉/著　講談社（F ヒ）

突然、高名な料理コンクールに出場することになった若き料理人・滝沢葉月。戸惑いながらも「誰のために、何のために創るのか」という問いの答えに向かって、彼女の闘いが始まる。

『御不浄バトル』羽田圭介/著　集英社（F ハ）

闘いの舞台はオフィスと個室？　新卒でブラック企業に勤めてしまった〝僕〟の唯一の楽しみは、駅ビルや会社のトイレで寛ぐことだったが･･･。
青年たちの一風変わった挑戦と闘いの記録。